

# SVA カンボジア事務所

## 図書館事業計画書（2008年～2010年）

### 1. 対象地域の教育状況

カンボジア復興のためには、質の高い教育を子ども達が受け、高い生産性を持った人材として育成されることが最重要とされる。カンボジア政府は、2015年までに Education for All（万人のための教育）を達成することを方針として掲げている。これを達成するために、小学校に240万人が就学することが指標としてあげられている。地域、民族の壁を超え、すべての子ども達に平等に通学の機会を提供するためには、少なくとも75%の小学校が小学校6年生まで揃えた完全校であるべきとされているが、実際には59%のみが完全校となっている。教育内部効率（退学・留年率の減少、進級率の増加）の改善のために、教育省は学校など教育施設の数の増加だけではなく、子ども達に適当な学習環境の提供など質的な改善、教育の近代化を図ることにしている。しかし高い退学率や留年率は未だに教育分野の大きな課題となっている。

教育省から出された「教育統計及び指標（2005/2006年度版）」によると、カンボジアには6,277校の小学校（61,901教室）があり、2,558,467人（内、女子1,209,282人）が学んでいる。これらの学校は1,037のクラスター（グループ）を形成している。また50,378人（内、女性21,022人）の教員が教えている。

2008年より図書館事業課はシエムリアップを新しい対象地域として活動を行う。現在活動中のコンポントムは2008年12月に終了する予定である。

シエムリアップは12の郡で構成されており、442校の小学校（3,693教室）がある。これらの小学校が63のグループを形成している。442校中、12校は老朽化が進み「大変劣悪な環境の学校」と分類されている。シエムリアップは174,901人（内、女子82,670人）が在学しており、教員の数は2,440人（内、女性1,259人）、事務員571人（内、女性176人）が働いている。

### 2. 他の援助機関の動向

対象地域であるシエムリアップとコンポントムで活動をしている主な団体は以下の通り。

- UNICEF: コンポントムにて学校建設、教員養成、必要な教材の配布
- Room to Read: コンポントム、シエムリアップで小学校の図書室に備品や本の配布
- BETT: シエムリアップで教員養成、学校建設

### 3. プロジェクトの必要性 妥当性

カンボジア教育省が打ち出しているクラスタースクール制度、チャイルドフレンドリースクール制度の中に、すべてのクラスターの中心校に図書室を設置し、活動が行われることが明記されている。しかし小学校の運営管理する教育省の初等教育局、図書館員を含め教員の育成を行う教員養成局 職員の能力的問題から、これらの制度が機能していると言いがたい。

以前より教育省から人材育成に対する強い要望が当会に届けられてきた。これは教育省の中に理論だけではなく、実践ができる人材が育つこと、図書館活動の仕方が記載されたガイドブックの作成が急務とされている。それゆえに、モデル地域での活動の実施に教育省の職員も参加してもらい、図書館活動を管理、運営、指導できる人材を育てて行くことを目標とする。また教育省より選出された職員と一緒に図書館活動ガイドブックを作成する。

初等教育の質と内部効率の向上のために、教育省は1996年よりクラスタースクール制度（学校群制度）を導入している。カンボジアにある小学校は1,037のクラスターを構成している。クラスターの中心校にクラスター図書館が設置され、中心校のみならず衛星校の生徒や教員、地域住民に知識や情報を伝える場として機能すること、おはなしなど様々な活動が行われることが必須とされている。しかしクラスター図書室設置に必要な長期

的・組織的な州教育局、郡教育局職員、校長、教員、図書館員のトレーニングが行われていない。本、書類など教材の絶対数の不足も致命的な問題である。教室も不足も図書館活動を運営して行く上での足かせとなっている。

生徒達のための本、雑誌など読み物が皆無に等しい。おはなし、折り紙、お絵かき等の魅力的な活動は、生徒や教員の国語能力の向上、長期の内戦で傷んだカンボジア人の精神面や創造的思考力の回復、生徒、教員、図書館員の強い絆づくりに役立つため、小学校図書室で行われることが必要である。絵本やおはなしは、ポルポト政権時に崩壊してクメール文化、慣習を次世代に継承するのに貢献していく。

#### 4.SVAが取り組む意義

シエムリアップは様々な顔を持つ州である。UNESCOの世界遺産に認定されたアンコールワットを抱え、世界中から年間100万人の観光客が押し寄せている。またアジアの中でも規模が大きくきれいな水であふれるトンレサップ湖に面しており、カンボジアにおいても重要な水源、漁業の場となっている。シエムリアップはカンボジアの収入確保に大きく貢献している反面、絶対貧困ラインよりも下で生活する人を多く抱える貧困州でもある。(2007年3月15日に世界銀行が、「シエムリアップ州における貧困層のエンパワメント事業」の助成金提供にサインした。)これは1970年より1998年まで内戦状態にあったことが大きな理由となっている。8の郡で成り立つコンポントムやバンテイミンチェイと比較すると、12の郡で構成されているシエムリアップは規模の大きい州と言える。学校には十分な教材がない。何校かの学校は1997年よりRedd Bama(セーブ・ザ・チルドレン・ノルウェー)の協力で絵本、ゲームなどの教材、備品の配布を受けていた。しかし小学校の教員は、配布を受けた教材の使い方を知らない。それゆえに、おはなしなど子ども達が必要とする活動を展開していない。大半の教員、校長は図書室運営、図書館活動、教材製作の研修を受けていない。

#### 5.対象地域 受益者数

##### 対象地域

プノンペン市(教育省)、コンポントム、シエムリアップ

##### 受益者

対象地	受益者	詳細	間接受益者(生徒数)
教育省(プノンペン市)	9	指導法調査局(2)、初等教育局(2)、教員養成局(3)、視学局(2)	
コンポントム	150	PEO(6)、DEO(8)、校長(68)、図書館員(68)	169,205
シエムリアップ	324	PEO(6)、DEO(12)、中心校校長(63)、中心校図書館員(63)、 <b>衛星校校長(90)、衛星校図書館員(90)</b>	217,197
合計	483		386,402

\*PEO=州教育局、DEO=郡教育局

#### 6.実施期間

コンポントム 2008年1月～12月  
 プノンペン市 2008年1月～2010年12月  
 シエムリアップ 2008年1月～2010年12月

#### 7.ハンドオーバーする相手と持続可能性

事業の持続可能性を高めるため、教育省、州教育局、郡教育局から選出されたトレーナーを対象に「トレーナー育成のトレーニング」を行う。またトレーナーには図書館活動を行うために必要な事業が書かれたマニュアルや教材を配布する。またモニタリングや研修会の同行を通じて技術を伸ばしてもらい、事業に関する報告書や統計は、トレーナーにも配布し、トレーナーは年次会議などでその報告書を使用し発表を行う。

## 8. 上位目標

- 中心校の図書館を利用し、全ての衛星校で図書館活動が行われる。

## 9. プロジェクト目標と指標

### プロジェクト目標

図書館活動が全ての中心校で行われる。

### 指標

1. 図書室の利用者数
2. 図書館員が行った図書館活動の回数

### 成果、活動 指標

1. 図書館活動普及のための教育省、州教育局から選出されたトレーナーが育成される。
2. 図書館員が図書館活動を行う十分な能力を習得する。
3. 図書館活動のマニュアル、図書、教材がすべての中心校で使用される。

### 指標

- 1-1 育成された教育省、州教育局の職員の数
- 1-2 育成された図書館員、校長の数
- 2-1 衛星校に移動図書館活動を行った中心校の数
- 2-2 おはなし活動を行った中心校の数
- 3-1 マニュアル、図書、教材を受け取った中心校の数

### 活動

- 1-1 教育省及び州教育局選出のトレーナーに対するトレーニング研修会開催
- 1-2 対象地域での研修会やモニタリングを通じたトレーニング
- 1-3 教育省のチャイルドフレンドリー委員会の中に「図書館活動促進部会」を設置
- 1-4 全国図書館活動会議を開催
- 2-1 校長や図書館員を対象とした研修会開催
- 2-2 モニタリングを通じた技術指導
- 3-1 絵本、紙芝居の出版と配布
- 3-2 一般図書の購入と配布
- 3-3 図書館活動用の教材の作成と配布
- 3-4 図書館活動のマニュアル作成

## 10. モニタリング・報告の方法

研修会終了後3ヶ月以内に研修会出席校へのモニタリングを行う。モニタリングは、当会の職員とカンボジア教育省及び州教育局選出のトレーナーにより行われる。モニタリングの内容は、1) 図書館活動及び図書館員の技術のチェック、2) 当会の職員、州教育局、図書館員による移動図書館活動、3) 必要に応じた技術指導とな

っている。当会の職員は聞き取りの結果をモニタリングフォームに記入する。記入されたデータはコンピューターに入力される。それを基に支援者に報告書を書き提出する。

## 11. 評価の計画

SVA Library Project conducts 2 kinds of evaluation- mid-term evaluation is performed in middle of the period of project implementation and final evaluation is conducted at the end of project. Evaluation is conducted after all activities are completely done by SVA. For Kampong Thom Project will be evaluated on May and June 2008. And for mid-term evaluation of JICA Project will be evaluated on October, November and December 2008 and final evaluation will be held on April, May and June of 2010. For Kampong Project SVA and DEO and PEO will be in charged. For JICA Project SVA, JICA, MoEYS, DEO, and PEO will be in charged.

## 12. 事業予算

約 円 (3年間) Please refer to attached budget plan.